



世界へのプレゼントになろう

2015～2016年度
国際ロータリーのテーマ
Be a gift to the world
世界へのプレゼントになろう

2015～2016年度
名古屋瑞穂ロータリー会長のテーマ
輝いて!!行動しよう!!
～Go Go Go～

Weekly Report

創 立：1980年(昭和55年)1月10日
会 長：伊藤 豪
幹 事：梅村 昌孝
クラブ広報委員長：田中 宏
例 会 日：毎週木曜日 PM12:30～
会 場：ヒルトン名古屋

事 務 局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3
ヒルトン名古屋1504号
T E L：052-211-3803
F A X：052-211-2623
M A I L：2760_nagoya@mizuho-rc.jp
U R L：http://www.mizuho-rc.jp/

第1738回例会

～母子の健康月間～
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2016年4月21日(木) 雨 第37回

司 会：長谷川隆会場委員

齊 唱：「それでこそロータリー」「四つのテスト」

ゲ ス ト：中部名古屋みらいRC 菅井径世さん

会長挨拶

伊藤豪会長

皆様こんにちは。春の家族会などがあり久しぶりのヒルトンでの例会です。

また、大きな地震がありました。先週14日夜に発生した熊本地震、熊本県と大分県では14日夜から昨日(20日)までに、最大震度7が2回、震度4以上の揺れを伴う地震は90回に達し、震度1以上の地震を合わせると715回に上っています。テレビ画面で見る家屋の倒壊・火災・土砂災害など甚大な被害・光景は、筆舌に尽くしがたい状況です。現在のところ死者数48名にも及んでおり、政府援助も始まっていますが、被災地の皆様に心よりお見舞いを申し上げますと共に、早期の復旧を祈っています。

今まで震度7の観測は、1995年1月の兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)、2004年10月の新潟県中越地震、2011年3月の東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)の3例しかないそうです。関東大震災(1923年)や東南海地震(1944年)は、震度7ではなく震度6とされています。(当時と今では、測り方が違っていたと言われています。)九州地方での計測震度7は史上初だそうです。

一方マグニチュードで調べますと、昭和・平成でM7以上の地震は49回にも及ぶそうです。平成に入ってから15回とそのペースは変わっていません。1944年から1946年に立て続けに起こった、東南海地震・三河地震・南海地震が2040年代までに60～70%の確立で起こると言われています。地震が起こらないのが一番良いのですが、くれぐれも注意を怠らぬよう備えていきたいと思います。

話題を変えます。今年に入ってから、ロータリーの周年記念行事出席が続いています。中でも、名古屋みなとRCの祝賀式典、祝宴は「にっぽん丸」船上が会場で、一風変わっていましたのでご紹介します。

「日本丸」と聞くと「太平洋の白鳥」とか「海の貴婦人」などと呼ばれている大型訓練帆船を思い浮かべていましたが、今回の「にっぽん丸」はクルーズ客船の方であり、商船三井所有の豪華客船でした。



祝賀会の実行委員長は、次期ガバナー補佐深谷友尋氏、会長は新会員研修会の際に指導して頂いた杉江豊文氏でした。出席者は総勢270名で挙行されました。式典は4階のドルフィンホールで行われ、祝宴は2階のメインダイニングルームにて行われました。

「にっぽん丸」船上にて祝宴を行った理由は、50年前の認証伝達式を「伊良湖丸」船上で行った事と、名古屋港を活性化したい為と述べられていました。祝宴では、来賓として大村知事を始め、元中日ドラゴンズ選手立浪氏、国府宮裸祭りの「神男」池谷氏の挨拶などもあり、和気藹々のうちに進められました。アトラクションはハワイアン演奏などが行われ、春を通り過ぎて常夏ムードいっぱいでした。

ちなみに「にっぽん丸」は、朝10時に神戸から名古屋港へ入港し17時には八丈島へ向けて出港するとの事、その間隙を縫っての記念事業を行ったとことになります。大変貴重な経験をさせていただきました。名古屋瑞穂RCからは、パストガバナー近藤雄亮さん、梅村幹事、私の3名の参加でした。

豪華客船といえば、先日も名古屋港金城埠頭にマリーナ・オブ・ザ・シーズ、138,279トン、乗客5,400人クラスのクルーズ船が入港しています。私も次の旅行は、カリブ海クルーズに行こうかな。

ニコボックス

関谷俊征ニコボックス委員

- ・ 4月15日が誕生日でした。アラ50になりました。 近藤 茂弘さん
- ・ 4月10日は結婚記念日でした。半世紀も前のことで忘れていました。

森 恒夫さん

- ・ 先週シカゴで行われた規定審議会で第2760地区から提出した立法案(決議案)が採択されました。喜ばしいことです。 近藤 雄亮さん
- ・ ちょっと良い事がありました。 江口 金満さん
- ・ 菅井さん、卓話にお越し頂き有難う存じます。 高須 洋志さん
- ・ 湯澤勇生さん、岡村さん、ご来店有難うございました。 中野 健二さん
- ・ 先日、無事飲食店オープンしました。ご協力下さいました皆様ありがとうございました。 鈴木 実さん

- ・ 明日は晴れますように。 鈴木 淑久さん
- ・ 熊本を応援しています。 長谷川 隆さん

- ・ 先日のチャリティーコンペに参加頂きありがとうございました。71万円集まりました。熊本に40万円、東日本に30万円贈りました。皆様に感謝です。 内田 久利さん

- ・ 4月24日に瀬戸でメサイヤの演奏会で歌います。古楽器によるダブリン1724年初演版です。 平野 好道さん

出席報告 関谷俊征出席委員

会員65名 出席44名（出席計算人数44名）

出席率 84.6% 4月10日は補填により 86.0%

幹事報告 梅村昌孝幹事

- ・本日13:40から新旧CA・新旧理事会をヒルトン名古屋4階「竹園の間」にて行います。
- ・宮澤伸光さんが3月29日付けで退会されました。
- ・本多清治さんのお別れ会の案内がメールボックスに入っています。一部は11:00から、二部は12:30からとなります。
- ・鈴木伸一さんの会員名簿用のシールがメールボックスに入っています。

委員会・同好会報告

ゴルフ部会4月度(第367回) 開催日:4月22日(金)

氏名	グロス	HDCP	ネット
優勝 山口哲司さん	76	2	78
2位 湯澤勇生さん	92	10	82
3位 鈴木淑久さん	89	7	82

第368回5月度ゴルフ例会は5月11日(水)、緑ヶ丘カンツリークラブにて開催いたします。

卓話 中部名古屋みらいRC 菅井径世さん

変化する環境

社会環境はもちろん、自然環境は変化します。その変化には、常日頃から当然のように感じられているものもあるかと思いますが、時折、改めて変わってきたと感じるものもあります。一方、気温、雨量、自然災害に関係する現象など、100年前後からそれ以上の長い周期で変化する環境もあります。長い周期で変化を繰り返す自然環境には、日常生活の中ではなかなか気付きにくいものです。そして、気付きにくい故に、様々な間違った解釈をする場合が多いようです。



特に、環境問題への意識が高まっている昨今、こうした間違った解釈が何らかの経済活動と結びつくと、非常に怪しげな流言飛語が溢れるようになっているようです。

現在、自然環境は、その全容を科学で解釈できるか否かとは無関係に変化しています。しかし、客観的な視点を持つように気をつけると、環境の変化に対応することの一助になるはずで、環境の長期的な、あるいは突如とした変化に追いつけなかったり、偶然のように大きな不利益などを受けることはあります。それでも、環境に対するより精確で、深い理解は、最善の策をもって対応しようとする時、非常に有効なはずで、

最近100年ほどの地球の平均気温変化に関しては、二酸化炭素濃度の上昇＝地球温暖化という図式が当たり前になっています。しかし、専門の学者さんに何うと、「温暖化している」と答えられるのは10人に1人で、2人は「寒冷化している」と答え、残りの7人は「分からない」と答えるそうです。「寒冷化している」と答えたのは、氷期・間氷期の周期が約10万年で、最近(最新)の氷期が1万年程前だったことを踏まえてい

る方が多いようです。つまり、地球は、あと9万年かけて、ゆっくり寒冷化するだろうという事です。これには意味があるのでしょうか。

例えば、現在、日本は春真っ盛りで夏に向かっていますが、昨日より今日の方が確実に気温が上がっているとは言えません。一年のうち、1日違いの気温の変化で、暖かくなっている、寒くなっているとは言えないのです。同じ理屈で、ここ数年の気温の変化をもって温暖化しているとも寒冷化しているとも言えないのが科学です。一方で、9万年後の次の氷期に向けて「寒冷化している」と言っても現実の生活で影響は見出せないかもしれません。

そういった研究者の事情を持ったまま、地球温暖化という言葉が飛び交う中で、あえて、最近100年ほどの気温変化について調べてみました。しかし、私は温暖化しているという確たる証拠は見出せませんでした。主な理由は、この間に大気中の二酸化炭素濃度は確実に上昇しているにもかかわらず、気温の下降が無視できないほど長く続いた期間があったということです。なぜ、「二酸化炭素濃度の上昇＝地球温暖化」が既定の事実のようにまかり通っているのでしょうか。もちろん、自然災害についても勉強している立場からは、「二酸化炭素濃度の上昇＝地球温暖化」という図式が成り立たなくとも、自然環境に対して過度な影響を与えること(この場合、二酸化炭素濃度を上昇させ続けること)には危機感を持っております。余計に心配になるのは、地球気温が長期的に下降を始めた場合、世の中で根拠もないまま、「もっと二酸化炭素濃度をあげてもいいだろう」といった風潮に陥ってしまう事です。

もう一つ、お話をさせて頂くのは、最新と思われる1万年前の氷河期から現在に至るまで、様々な地球規模の気温変化があったという事です。これに伴う降雨量などの様々な事象の多様な変化が、人の生活、文化、習慣、宗教、文明、政治などに大きな影響をもたらしました。いくつかの例から、環境の変化に対して、今後私たちや次の世代の皆様がどのように対応していけば良いかを考えるきっかけにして頂けたらと思います。主に地理学の鈴木秀夫先生の書籍「森林の思考・砂漠の思考(NHKブックス)」を参考に勉強させて頂きました。気温の変化は思われていたより大きく周期的なもので、創造より頻繁に発生しており、人間社会への影響も予想されていたより大きなものだと思っていただけたのではないのでしょうか。

確実な証拠に基づいたお話をしたつもりですが、まだまだ分からないことも多く残されています。皆様には、卓話へのご意見、ご感想も含め、今後も様々な形でご指導頂きたくお願い申し上げます。また、貴重な機会を与えて頂きましたことに心より御礼申し上げます。

例会のご案内

■今週の卓話 4月28日(木)
テ－マ：新会員イニシエーションスピーチ
会員卓話：北岡寿人さん

■次週 5月5日(木) 法定休日により休会

■次々週卓話 5月12日(木)
テ－マ：歌舞伎と三味線音楽
卓話者：杵屋弥四郎さん